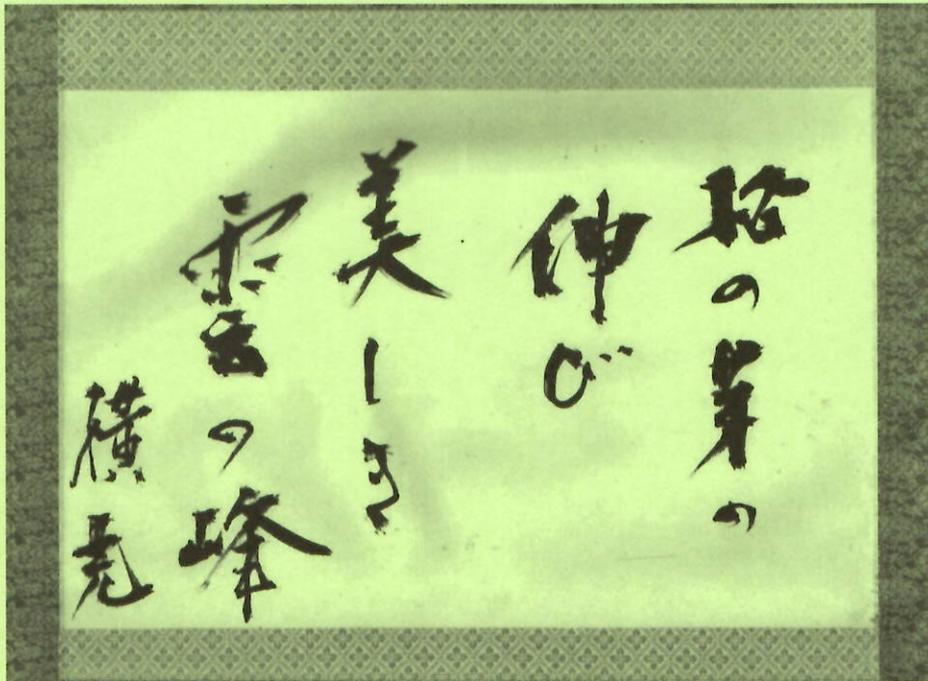


「心をつなぐアートのカ」

第23回 大分県民芸術文化祭参加行事

第23回 横光利一俳句大会

～入賞作品集～



発表：令和3年12月11日（土）14:00～15:00

宇佐市民図書館 視聴覚ホール

主催／宇佐市・宇佐市教育委員会・豊の国宇佐市塾
後援／大分県・大分県民芸術文化祭実行委員会・NHK 大分放送局
OBS 大分放送・TOS テレビ大分・OAB 大分朝日放送

ごあいさつ

横光利一生涯100年を記念してスタートした「横光利一俳句大会」も今回で23回目を迎えることができました。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大により、表彰式の開催をやむなく中止せざるを得ませんでしたが、今年は感染防止対策を施し、入場者数を会場定員の半数という条件での実施に漕ぎ着けることができましたことを喜んでおります。

さて、今年の応募総数は6095句で、一般の部が2104句、中学生以下の部が3991句でした。

応募人数は2148人で、一般応募が516人、中学生以下が1632人でした。

団体応募は県内外の小・中・高等学校を中心に、33校から4138句に及ぶ作品をいただきました。

全国各地から応募してくださる一般の部の方々をはじめ、学校単位、クラス単位で取り組んでくださる児童・生徒のみなさんや、指導してくださる先生方のご協力に対しまして、厚く御礼申し上げます。

入賞句の選考につきましては、例年同様、写真家の浅井慎平先生と俳人の野中亮介先生にお願いをいたしました。両先生におかれましては、お忙しい中、たくさんのお応募作の選考をしてくださり、まことにありがとうございます。今後とも本大会へのご指導、ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

終わりに、入賞されたみなさまのご多幸とさらなるご活躍を祈念いたしますとともに、今後とも、本大会へのご支援をお願い申し上げます。あいさつといたします。

令和3年12月11日

宇佐市長 是永修治

第二十三回

「横光利一俳句大会」表彰式

式次第

- 一、開会
- 一、主催者あいさつ
- 一、表彰式（特選・秀作）
- 一、講評 野中亮介氏（選者）
- 一、閉会

■選者■

浅井慎平氏 昭和 12 年、愛知県生まれ。写真家・俳人。句集に『二十世紀最終汽笛』、『冬の阿修羅』などがある。平成 27 年、西東三鬼賞（最優秀）受賞。

野中亮介氏 昭和 33 年、福岡県生まれ。俳人。俳人協会理事。俳誌『花鶏』（あとり）主宰。令和 3 年、句集『つむぎうた』で第 60 回俳人協会賞受賞。

横 光 利 一 *Riichi Yokomitsu* (1898~1947)

宇佐出身の父・横光梅次郎と伊賀（現・三重県伊賀市）出身の母・こぎくとのあいだに、父の仕事先であった福島県で生まれた（利一の本籍は生涯宇佐にあった）。

菊池寛に認められ、川端康成を紹介されて親友となる。新感覚派文学のリーダーとして、昭和初期からめざましい活躍をし、昭和十年代には「文学の神様」と称された。

代表作に「日輪」、「上海」、「機械」などがある。また、半生をかけて書き続けた未完の大作「旅愁」の後半に主人公が故郷の九州を訪ねる場面があり、そこには宇佐の自然や人々との触れ合いが描かれている。

友人・知人に俳人が多く、自らも熱心に句作をし、小説の中にも盛り込んだ。また、句会「十日会」を主宰し、俳人の水原秋桜子や石田波郷らが参加したほか、門人の石塚友二や清水基吉は、小説家のかたわら俳人としても活躍した。

1998年に生誕百年を迎え、伊賀市（三重）、世田谷区（東京）、宇佐市、鶴岡市（山形）など、全国のゆかりの地であいついで記念事業が行われ、以来、各地の交流が続けられている。「横光利一俳句大会」も、宇佐市の生誕百年記念事業の一環として始められ、現在に至っている。生誕120年目にあたる2018年の表彰式は、「国民文化祭おおいた2018」の分野別事業として、規模を拡大して実施した。

第二十三回 横光利一俳句大会 入賞作品

【一般の部・特選】 十句

横光利一俳句賞

月光や遅き帰宅の鍵の穴

宇野木邦子 熊本市

大分県知事賞

終戦記念日解凍を待つ魚

湊野陽鳥 大分市

宇佐市長賞

ちちははもはらからもみなひとつ蚊帳

岡村明美 由布市

宇佐市議会議長賞

寒林のその一本をこころざす

葦目良雨 文京区

宇佐市教育長賞

父母のおらざる町や赤とんぼ

後藤南女 大分市

大分県北部振興局長賞

蛸や五右衛門風呂の熱きこと

武藤紀子 名古屋市

宇佐市民図書館協議会長賞

弟の骨は拾はず生身魂

金澤諒和 大分市

豊の国宇佐市塾賞

車椅子膝に揚羽を憩はせて

ハワード素子 アメリカ

浅井慎平選者賞

大佛の中は空洞秋の風

村上君代 大分市

野中亮介選者賞

生かされてまだ暫くは月を愛づ

小田祥子 大分市

【中学生以下の部・特選】

十句

横光利一俳句賞

明日には一番さいごのせみがなく

永松絢香 あやか

八幡小三年(宇佐市)

大分県知事賞

あの夜の花火がむねにさいている

辻生絢羽 つじしょうあやは

大在小三年(大分市)

宇佐市長賞

はかまいりごせんぞさまをおんぶする

大西結乃音 ゆのん

津房小四年(宇佐市)

宇佐市議会議長賞

いかつりでいかがこうげきしてくるよ

山下結葵 ゆき

大在小三年(大分市)

宇佐市教育長賞

秋になりパラパラと本が鳴る

大塚向日葵 ひまわり

長洲中一年(宇佐市)

大分県北部振興局長賞

かぶと虫樹液のためにすもうとる

幡手陸人 りくと

駅川中一年(宇佐市)

宇佐市民図書館協議会長賞

かきごおりお日さま先にたべないで

森本和夢 ゆめ

駅館小二年(宇佐市)

豊の国宇佐市塾賞

ふきのとう雪の山から顔がでる

菅原美能里 みのり

宇佐小三年(宇佐市)

浅井慎平選者賞

自転車へ一直線にくる蜻蛉

本多明凜 あかり

長洲中一年(宇佐市)

野中亮介選者賞

僕たちは八月六日を忘れない

堤群万 つつみぐんま

宇佐中三年(宇佐市)

【一般の部・秀作】五十句

小さき手の倦まず編みをり螢かご 赤松千代子 中津市
高く振る帽子に驟雨無人駅 上尾ヤス子 大分市
海見ゆる部屋にレースを編み上げぬ有川絹江 西海市
水澄むや湖に伝説生まれたる 石井明美 津久見市
螳螂の目玉は顔をはみ出せり 井上次雄 草津市
帰省する紙飛行機に乗って 今山鮎子 佐伯市
弦の音合はす夜長の楽器店 岩田賀代 高松市
寡婦となり終戦となり祖母の八月 岩波千代美 大分市
坐りても立ちても海や終戦忌 植田桂子 高松市
新涼のうなじに触れる真珠玉 太田通子 太田市
蟋蟀や焚き口残る瓦斯の風呂 大野洋子 玖珠町(大分)
閉校のオルガン鳴らす敗戦忌 岡汀子 三木町(香川)

帰省子の残り香灰か夜具たたむ 奥野律子 宇佐市
黙禱のあとの無音や原爆忌 押谷隆 別府市
楽屋にて台詞を浚ふ白緋 小野智輔 大分市
炎天を来て忠魂碑の静寂 川野和良 佐伯市
稲の葉に宿す朝露凸レンズ 河野正 延岡市
しんがりも先頭もなし蟻の列 岸原邦代 岡垣町(福岡)
両脇の子らの寝顔や月明かり 楠本映子 福岡市
十字架を背負うが如し秋の蟬 神徳和雄 津久見市
庭下駄の踵の余る萩の宿 後藤美子 臼杵市
夕涼やピアノソナタの零れくる 是澤勝行 津久見市
新涼の一步大きく踏み出しぬ 坂本叡子 津久見市
約束はいつも空振り時計草 櫻井啓子 大分市
色変へぬ松や文宮に夫の文 佐藤佳津 津久見市

新松子平和な暮しありにけり	首藤恵子	別府市	月一つ湖一つ大花野	林 正子	朝倉市
母いつも誰かを祈り草の花	高野ちか子	大分市	また眼鏡拭くや学びの秋渴き		
一頁はらりとめくれ赤蜻蛉	高橋和美	豊後高田市	ハワードマクシミリアン勇基郎		高松市
うなづきて涼しくゆらすイヤリング高柳和弘		大分市	ソーダ水口の中より波の音	平田素子	福岡市
終戦忌富士より高く竹とんぼ	竹浪誠也	鶴田町(青森)	敗戦忌父の青春聞かぬまま	藤目ひとみ	高松市
開店を待つそれぞれの夏帽子	田嶋恵子	大分市	弟の草笛先に鳴りにけり	古川和子	鈴鹿市
ポケットに宇佐飴一つ利一の忌	富尾和恵	大分市	その中に見馴れぬ人も溝浚	豊東美智子	大分市
黴の書に鉛筆書きの父のメモ	富川元女	大分市	クロップに塗り込むオイル夏の果	牧野桂一	大分市
雲の峰豊後三山従へて	中尾豊子	大分市	デコルテに一筋の紅憂國忌	増永ののか	北九州市
忘れ貝拾ひ集めて夏の果	中島走吟	紀の川市	霧深くロマンポルノの映画館	松原幹夫	由布市
箴音の路地より洩るる十三夜	中村恵美子	奄美市	ひまはりの後ろへまはり込む月日	睦ほたるこ	大分市
あさがほの絞りのゆるむ夜明前	西村安子	荒尾市	春のカフェ昔えげれす領事館	山本雪彦	所沢市
秋の蚊のひそむ五高の八雲の碑	野口美智子	熊本市	水澄むや水切りの石水を切り	吉本栄子	津久見市

【中学生以下の部（小学生以下）・秀作】二十四句

このイネは遠く奈良まで旅をする 安達望華^{もな} 長洲小五年

花火よりみんなのおめめかがやきだす 石川聖菜^{せな} 安心院小六年

富士山が桜と合って日本一 榎園智志 四日市北小六年

ふうりんが風にゆられてうたいだす 押領司莉音^{おうりょうじりおん} 柳ヶ浦小五年

夏風が涼しい風に吹き変わる 岡本瑠佳^{るか} 駅館小六年

入道雲今年も一本ホームラン 奥田昌宗^{まさむね} 四日市北小五年

ぼくの夢猛暑の中の甲子園 片岡聡吏^{さとり} 和間小五年

夜桜が月に照らされ海のように 金光れい 四日市北小六年

なまずさんひげが大きいおじいさん 萱島尚哉 大在小三年（大分市）

とんでゆく麦わらぼうしおいかける 辛島鈴菜 和間小五年

今年もねたんすの中で泣く水着 河野恵利 北馬城小六年

鈴虫は秋を知らせる演奏家 久保美波^{みなみ} 駅館小六年

たんぽぽにてんとうむしがお留守番 熊谷よつば 駅館小六年

フェアウェアはじけた風船口の中 小松 姫^{ひめ} 八幡小四年

花火見て青田のいねもにぎやかに 坂本野乃華 宇佐小四年

弟が一ぱつでわるすいかわり 佐藤稜真 大在小三年（大分市）

サイダーのコップの向こう青い空 白根朱華^{あやか} 大在小五年（大分市）

道の中くりがいったい足がいたい 白田悠之助 四日市南小三年

夕立が静かにぬらすあつい町 末田帆音^{ほのん} 柳ヶ浦小五年

すいかわりさいごにたのしいたねとぼし 田口日菜希^{ひなの} 宇佐小一年

メロン食べみどりの船ができあがる 玉井陽菜^{ひな} 大在小三年（大分市）

海で泳ぐ私人魚になったみたい 時枝実咲 糸口小五年

立春は新生命の誕生日 内藤璃星^{りほ} 駅館小六年

ゲームセットあせと涙で前見え 濱小路叶汰^{はましようじかなた} 高家小五年

【中学生以下の部（中学生）・秀作】二十五句

すずらの花と一緒に幸せを 秋吉小春 大分中一年

秋がくる線香花火散るころに 秋吉悠斗 朝日中一年（別府市）

蝉たちはいつまで鳴くのもう夜だ 石井 遥 院内中一年

卵からお玉杓子があふれ出る 岩本輝希 宇佐中一年

部活後に夕立ち浴びる青春の空 宇都愛梨 朝日中一年（別府市）

去年よりもさらに寂しい七夕だ 大園淳心 宇佐中二年

新しく子犬をつれて暑くなる 甲斐優斗 朝日中一年（別府市）

五月雨や幼きあの日の恋心 加藤駿介 駅川中三年

グロープのよごれから浮ぶきつい夏 後藤光稀 長洲中二年

暗い夜花火の光は残らない 小中優菜 西部中一年

麦茶飲む私もコップも汗だくだ 小松心葉 西部中二年

炎帝の中で聞こえる打球音 斉藤夕真 長洲中三年

手の内の小さな幸せ線こう花火 重光優輝 駅川中三年

おかえりと祖母につぶやく盆の期 高窪勇人 宇佐中一年

しおなりが夏のあつきをささやくよ 辻 志桜里 駅川中一年

積雪に喜ぶ君の息白し 手嶋希望 安岐中三年（国東市）

墓掃除キラリと一滴あせ流れ 寺下幸太郎 駅川中三年

汗ながしひっしに走れ駅伝は 中村亜美 駅川中一年

日常の幸せ映すシャボン玉 長谷川恵子 西部中二年

麦踏みて我の心も固まりつ 樋田陽香 高田中三年（豊後高田市）

朝早く部活に行つて日焼けする 福本彩七 朝日中一年（別府市）

紅葉狩ひらひらひらり絨毯へ 澁 彩葉 大分中一年（大分市）

ミルキーウェイ約束はたしに会いにゆく 古屋知遥 駅川中三年

向日葵の後ろに隠れる妹さん 本庄百々桜 西部中二年

過ぎゆくは友との会話と雲の峰 吉岡菜々美 安岐中三年（国東市）

【一般の部・佳作】百五十句

爆心地深閑として蟻の道

相川正敏 佐世保市

嵐の夜月下美人を迎へ入る

大賀康男 新居浜市

敗戦忌ぬるくなりたる水苦き

安藝達也 鳴門市

若鮎の尾びれ光らせ上りけり

大木本法通 上毛町(福岡)

虫かごの蜻蛉を放つ夕べかな

阿部奈保子 由布市

鮎の臍今年も届き父達者

太田玉流川 菊池市

八月やスーパに売るパンの耳

荒尾かのこ 荒尾市

猪の唐芋掘りや畑に来て

太田清美 荒尾市

日盛やのっそりといま船帰る

いしかわつよし 大津市

幼き日もつと笑ったソーダ水

大坪 覚 横浜市

風糸で修理の靴卒業す

石川 昇 世田谷区

豊の秋舟当箱が閉じられぬ

大野ひろし ひたちなか市

聞き流す噂話や心太

石丸正楓 横浜市

パレットに探る紫紺や茄子の艶

大波多美妃 豊後高田市

戦争に大小なくて鬼やんま

いとう鶴 大分市

泥の足洗ふ水口夕ぼたる

尾形 忍 上毛町(福岡)

昼の虫都会暮らしの子にメール

糸永悦子 別府市

戻りゆく帰省子ついに振りむかず

緒方俊子 大分市

三日とは見上ぐる丈よ秋桜

今村七栄 宇佐市

本の付箋少し縮れし秋暑かな

岡部すみれ 浜松市

シャンパンの泡遊びをり利一の忌

井村節子 別府市

蝉の声君の面影噛みしめる

小川莉生 中津市(高三)

萍や暮れて高まる水の音

岩花太美 上毛町(福岡)

この星の隅のひとりの温め酒

荻原都美子 秋田市

踏青や城址の堀の水清し

上原カツ江 前橋市

セミが泣く命を削り散っていく

於久瑞祈 中津市(高三)

とんぼ飛ぶ更地になりし水車跡

植村喜美 東大阪市

鍋肌に灰汁まとひつく溽暑かな

小野澄子 上毛町(福岡)

蝸や風呂に引き込む山の水

白木すなえ 上毛町(福岡)

青麦やトロイメライを弾く兵士

小野蒼水 由布市

古の風を吹かすや薪能

浦田穂積 唐津市

寒天を睨みつづけて鬼瓦

小野瑞季 由布市

ストープに火を入れしままうづくまる

遠藤孝明 日高町(北海道)

七五三記念写真はマスクとり

勝又 薫 御殿場市

ひとつ咲きひとつが終る未草

遠入みつ子 中津市

逃水を追ふランナーの聖火かな

大江深夜 練馬区

どつと降りどつと飛び立つ稻雀	加藤久子	東海市	天空を源流として滝桜	木幡忠文	足立区
炎天の蟻の葬列アスファルト	加藤裕明	別府市	秋雨や明るき色の服を着て	小林葉子	西子市
噴水の水によるこぶ高さまで	加藤房子	横浜市	恋猫を恋を知らない子が叱る	小平展久	佐伯市
動き出す子らに負けじとかぶと虫	加藤雅美	由布市	読み終へて涼しさ白ふ母の文	近藤國法	日南市
筆文字の連綿美しき白露かな	鹿沼 湖	鹿沼市	宇宙あり芋葉にすべる露一つ	財津 龍	日出町(大分)
蝸や外風呂わかす子の背中	川岡末好	佐世保市	爽籟や灯台守の家の跡	坂本真二	宇土市
新涼の沓脱石に下駄二足	河野二三華	宇佐市	図書館の若き色合い夏休み	佐々木美知子	所沢市
秋菖技のあやなす飛び鮑	河野洋子	中津市	梅を干す妻に昭和の母白ふ	佐藤 力	横浜市
結願か鉦叩きの声絶えにけり	岸本つや子	京都市	紫陽花と並んで開く黄色傘	佐藤祐樹	富士市
世に似たる男は三人マスクする	北野昭夫	熊本市	衣替え衣服と一緒我心変え	佐村真唯	中津市(高三)
ピオトープ緑雨の水輪ひと尋に	木下恕子	大分市	新涼の路地へ定刻介護バス	首藤順子	大分市
喉鳴らす二十歳の息子初ビール	木村美保	由布市	みたらしの真白きタオル秋高し	白井百合子	阿南市
雲染むるあの辺りらし遠花火	木本真佐子	大分市	竹ぼうき休めし頬に秋の風	白浜ゆき	荒尾市
バス停は海の匂ひす花カンナ	楠本シヨリ	西海市	昼下がり三々五々の桜かな	杉山一男	静岡市
白南風や練習船の拳手の礼	熊谷文子	上毛町(福岡)	石けりの円のかすれて萩の花	関谷初江	前橋市
初恋や手の届かない夏燕	黒木成剛	龍ヶ崎市	喝采のごとかなかなの立ち上がる	高田英子	日出町(大分)
夏空に矢の一条や飛行雲	小出繁美	由布市	尺玉の花火轟く紙の町	高橋寿子	四国中央市
日の出より一と足早き草取女	古賀紀子	大牟田市	朝顔を咲かせ夫婦の立話	竹光直子	別府市
うかれ猫あつけらかんと孕みけり	後藤利夫	大分市	真夜中の厨にさわぐ浅蜷かな	田長丸桂子	中津市

秋立つや豊後水道澄み渡る	谷本広一郎	八幡浜市	どの道をゆくも満月影法師	中山恵美子	上毛町(福岡)
あなたには二度と逢えないお盆の日	田原利葵流	中津市(高二)	いい人を放り投げたる冬天に	新納眞智子	大分市
老農の白き眉毛や稲埃	塚本治彦	茅ヶ崎市	大雨に素直になりし草を引く	二宮礼子	八代市
獅子舞の口より酒の匂ひかな	辻 雅宏	岐阜市	守らるる三連水車青田風	野中安子	大分市
石地蔵露けき石となりにけり	鶴田信吾	熊本市	銀漢や子供のころの幼き字	橋本和子	荒尾市
苦瓜に鉄を取られし日延べかな	弦田満明	宇佐市	何もかも定めと思ふわすれ草	蓮谷多美子	大分市
動かなくなつても籠の甲虫	寺坂公広	中津市	爆撃の応酬続く五月闇	馬場美江	別府市
大阿蘇の胎内ぬけし寒の水	富田湖人	津久見市	田を植うる村に掟のありにけり	葉山高弘	八代市
書を曝す寡黙な父の世界かな	友永美保子	大分市	ひき潮や島まで歩く磯遊び	原井みえ子	糸島市
黄落や天に召さるる事をふと	友成聖子	北九州市	時雨降る君住む街の遠い空	原田善二郎	宇佐市
丸刈りの子らの頭や夏来たる	内藤節子	上毛町(福岡)	男らの今日はいずこの鯊釣に	飯田勢津子	上毛町(福岡)
うそ寒や人形寺のガラスの眼	中川和美	宇治市	真昼より螢袋の灯を点す	飯田東夷	大分市
大太鼓家々捧ぐ盆踊り	中川久子	宇土市	金鳳華今は昔の農耕馬	飯田百代	大分市
戦時下の遺品に俳誌走馬灯	中川富美子	大阪市	莊園の水の豊かに宮相撲	日小田ムツミ	日出町(大分)
爽やかや勝者敗者の抱き合うて	中川靖子	東大阪市	猫背して猫に相槌ちゃんちゃんこ	久田浩一郎	長崎市
奈良坂の石の仏や若葉風	中川雄策	大磯町(神奈川)	御廟所に散らして白ふ葛の花	樋田征子	宇佐市
ゆきだるま見とれるほどに溶けていく	永木唯愛	中津市(高二)	蜻蛉や船着場とて杭一つ	深町 明	朝倉市
雁の棹時には乱れ整へて	中出美司子	京都市	藤の花ゆれて何やら人恋し	福田煥子	高崎市
夏空を仰ぐ墓標の並ぶ道	永松悦子	宇佐市	休日少年野球天高し	藤掛陽子	我孫子市

陽に編まれ風に編まれて蔓枯るる	藤崎由希子	宗像市	真向いに谷が展けて冬支度	八木冬董	都城市
先生に恋したあの日夏季講習	藤本真子	岸和田市	父の日や素つ気なく置く赤ワイン	八木玲子	西条市
平安の雅の艶や式部の実	藤本幸子	宇土市	祇園へと産寧坂の花月夜	安田薫風	大田原市
秋の夕一人の帰路に風が吹く	藤本侑希	中津市(高三)	手拭の母のほひや山桜桃	山家志津代	伊予市
猪道を大粒の雨濡らしけり	二村和子	荒尾市	わが影にまた水を打つ敗戦忌	山内利男	福知山市
ネクタイは一日の枷秋惜しむ	古川みつよ	津久見市	旅人に話かけらる秋桜	山村恵子	玉名市
ナイスショット真直ぐ鯛雲に乗る	古野文江	大分市	ふる里の桑の実口を染めた夢	山村すけお	大分市
利一忌や雨にきらめく狸々木	辺野喜宝来	那覇市	ひまわりは上を向いてるどんな日も	山本明莉	中津市(高三)
夕影となりて向日葵力抜く	堀越和子	別府市	男振り一段上がる黒マスク	山本千代子	練馬区
大仏の吐息のごとく蓮ひらく	本多加代子	宇佐市	原爆忌微力は無力ではあらず	由井 健	練馬区
山の中招き入れるは葛の花	松原 啓	由布市	蟬時雨画布食み出してをりにけり	横田青天子	今治市
以上でも以下でもなくて蝸牛	まねきねこ	上田市	青蜥蜴石に止まれば石冷す	横山八千代	大分市
櫻綱捧げ祝詞と笙の音と	丸井元江	大分市	合掌の手に包みたる冬日かな	吉浦百合子	周南市
ホームランの少年夏を駆け抜ける	溝野智寿子	大分市	火柱の仁王のごとき野焼かな	吉田紀美代	阿蘇市
猪の子育てを知る里の秋	三宅英明	大分市	短夜や旅立送る般若湯	吉田由紀子	大分市
幼子の笑顔出るまで芋煮会	村本はる	荒尾市	赴任地に降り立つ駅も霧の中	吉富敏子	大分市
知らぬ間に羽衣草も仲間入り	目原千鳥	大分市	白黒の写真に暑き昭和かな	吉野佳子	八代市
アトリエの備前の古壺小判草	矢川美枝子	大分市	保育所に小さき円墳小鳥来る	鷲津誠次	可見市
牛の背の文字黒々と牧開き	八木ケサエ	阿蘇市	ささやかな夢を追ひかけ木の実降る	渡辺吞水	大分市

【中学生以下の部・佳作（園児）】一句

にらのはなしろつめくきとおなじしろ 十時乙叶 谷幼稚園（由布市）

【中学生以下の部・佳作（小学生）】三十三句

残業の蚊取線香父守る 荒尾快晴 府本小五年（荒尾市）

キャンプでねみんなどで立てた大テント 池内 要 大在小三年（大分市）

あめあがりキラキラあじさいかたつむり 井本実歩 宇佐小二年

夏祭りどのやたいから回ろうか 江藤愛梨 八幡小五年

進級で友達いるのか心配だ 大隈脩平 駅館小六

夏祭り商店街の行列だ 大隈萌衣 佐田小四年

葉が落ちるそろそろ秋がやってくる 大塚武尊 駅館小六年

夏休みドッジボールに熱中症 岡 希遥 豊川小四年

秋になり防災の日だ対さくを 小野景太 四日市北小五年

毎日がデジャヴの様な夏休み 小幡真央 柳ヶ浦小六年

がまんをしながらのおもいですこしだけ 掛水咲来 駅館小二年

頭だけだしてあいさつ冬の朝 梶谷りな 糸口小五年

夏祭り今年もコロナ中止だな 加藤幹菜 佐田小四年

プカプカと星空の海水着でね 小島琥子 津房小五年

あじさいがきれいにさくと雨がふる 小柳理紗 柳ヶ浦小五年

カプトムシ小さな家族大切に 斎藤希乃香 佐伯小四年（佐伯市）

天の川ご先祖様が照らす夜 坂本華乃音 宇佐小四年

夏休み机に宿題手に漫画 佐藤柚奈 安心院小六年

川あそび楽しいけれどカエルがね 園田倅一朗 深見小六年

松たけが高くて買うかまよう人 高久 諒 駅館小六年

バーベキュー俺ががんばる夏のよる 田中慎弥 四日市南小三年

夜の空花火といっしょにかぶ星 永野花音 長峰小五年

夏休みおおもものねらい父とつる 原田あかね 長峰小四年

夏が来て台風たちがやってくる 原田果歩 長峰小六年

大まわりして空をとぶかぶと虫 東 莉久 中央小三年（荒尾市）

ながればしすごいはやさでさってった 深蔵 輝 駅館小二年

夏の夜耳をすませばドーンドン 宮本真道 八幡小四年

昼休み水遊びして虹がでた 柳生椿希 大在小五年

にこにこださんま食べるとおいしいよ 安長将汰 封戸小五年

チリンとね夏の風がね風りんんに 矢野紅藍 糸口小五年

水面をすべるあめんぼふしぎだな 山野琳央 豊川小三年

つばめの子ぼくの家でやすんでる 米村 陸 高家小五年

なつの朝ザリガニとりに父といく若山久縁 西馬城小三年

【中学生以下の部・佳作（中学生）】十六句

夏空を見上げてスマッシュ決めていく 安藤昂樹 西部中二年

夕焼が広がる下の帰り道 大冨穂乃華 長洲中二年

夏の田は生き物達のレストラン 小野春輝 西部中二年

祖母の家網戸をぬけるおおあくび 金丸奈津 長洲中二年

お供えのスイカを狙う夏休み 後藤京美 西部中一年

僕の部屋蚊を見るだけで腹が立つ 後藤悠希 朝日中一年（別府市）

真菰咲く家の庭には犬がいる 坂口心優 長洲中一年

ねがいこめ見上げる空に天の川 佐々木佳子 駅川中二年

夜の川星が移って天の川 佐藤美来 駅川中二年

帰省した久しぶりの兄うれしいな 篠田菽月 朝日中一年（別府市）

玄関でむかえてくれる金魚一匹 清水悠里愛 朝日中一年（別府市）

水田のおたまじゃくしとおにごっこ 都留康平 宇佐中一年

カプトムシ光に向かって飛んでゆく 長野皇士朗 朝日中一年（別府市）

クモの巣にビーズがついた雨上がり 平野杏瑠 安岐中三年（国東市）

盆も過ぎ今年は出番ない浴衣 本多凜子 宇佐中三年

選手の日体験したくてプール行く 山香美和 西部中一年

編集・発行 宇佐市民図書館 令和3(2021)年12月11日

〒879-0453 大分県宇佐市上田 1017-1

TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679

URL.<http://www.usa-public-library.jp/>

九州・沖縄から

文化力

POWER OF CULTURE